

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公開番号】特開2006-233822(P2006-233822A)

【公開日】平成18年9月7日(2006.9.7)

【年通号数】公開・登録公報2006-035

【出願番号】特願2005-47831(P2005-47831)

【国際特許分類】

F 02 D 45/00 (2006.01)

F 01 L 13/00 (2006.01)

F 02 D 13/02 (2006.01)

【F I】

F 02 D 45/00 3 2 0 Z

F 02 D 45/00 3 7 0 B

F 01 L 13/00 3 0 1 J

F 01 L 13/00 3 0 1 Y

F 02 D 13/02 G

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

また、フィルタ122では、メジアンフィルタ121によりサンプリングされたフィルタ値 R_{s1d_f1t} に、下式(11)～(14)に示すフィルタリング処理を施すことにより、中心値 U_{cain_cent} が算出される。なお、下式(11)において、nは整数であり、mは $m = 2f + 1$ が成立するような整数であり、 ε は正の所定値である。

【数5】

$$U_{cain_cent}(k) = \frac{1}{n+1} \sum_{j=0}^n F_{\varepsilon}(R_{s1d_f1t}(k-mj), R_{s1d_f1t}(k)) \quad \dots \dots (11)$$

・ $X > Y + \varepsilon$ のとき

$$F_{\varepsilon}(X, Y) = Y \quad \dots \dots (12)$$

・ $Y - \varepsilon \leq X \leq Y + \varepsilon$ のとき

$$F_{\varepsilon}(X, Y) = X \quad \dots \dots (13)$$

・ $X < Y - \varepsilon$ のとき

$$F_{\varepsilon}(X, Y) = Y \quad \dots \dots (14)$$

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 5 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 1 5 2】

なお、以上の各実施形態は、変調アルゴリズム、変調アルゴリズムおよび変調アルゴリズムを適用したアルゴリズムによって、制御値を変調することにより、制御入力 $U_{c a i n}$ を算出した例であるが、制御入力の算出に用いる変調アルゴリズムはこれに限らず、制御値を変調することにより、制御入力を算出できるものであればよい。例えば、変調アルゴリズムとして、PWM (Pulse Width Modulation) アルゴリズムや、ディザにより制御値を変調するアルゴリズムを用いてもよい。